

## 月報

## みぎわ

発行 日本福音ルーテル大垣教会・岐阜教会 毎月一回第1日曜日発行

## 使徒信条(20)

齋藤幸二

「からだの復活、永遠の命をわたしは信じます」

キリスト教はイエス・キリストの復活から始まりました。十字架で死んだはずのイエスがよみがえった！ この驚きと喜びが、世界への宣教に出てゆく弟子たちの原動力となったのです。

しかしその喜びはキリストが死から三日目に復活した、ということだけでなく、その命が、イエスを信じる者にも分け与えられる、という喜びです。

《わたしは復活であり、命である。わたしを信じる者は、死んでも生きる》(ヨハネ 11:25)

《しばらくすると、世はわたしを見なくなるが、あなた方はわたしを見る。わたしが生きていますので、あなたがたも生きることになる》(ヨハネ 14:19)

聖書は霊だけで生きる「天国」や「あの世」というものを教えてはいません。霊だけ生きて体が死んでいるだけでは死への勝利はありません。「わたしは死者の復活など信じない」という人でも、自分の子どもが亡くなれば「あの世では寂しかろう、辛かろう」といって菓子やぬいぐるみを供えたりします。それは死んだ子が食べたり、見たりする感覚を持っていると信じたいからです。親は子どもの霊だけでなく、その顔を見、生きてその体を抱きしめたいのです。

しかしどうしたら死に勝つ復活の命を得ることができるのでしょうか。エジプトの王は死後の安楽な生活を願って莫大な金銀宝石を墓に収め、自分の体は腐らないようにミイラにしました。しかしその遺体は本人の意志に反して博物館に飾られることになってしまいました。また秦の始皇帝も不老不死の薬を捜すために臣下を方々に送りましたが、望みを

果たすことはできませんでした。

もともとすべての命は神が創造したものですから、神の祝福がなければ誰も永遠の命を得ることはできません。罪のある人間が不死の命を得たとしたら恐ろしい結果を生じるからです。人類の中で誰一人、不死に値する人はいませんでした。ただひとり、人となられて神の意思に忠実に歩まれた神の御子イエス・キリストだけが復活の命を神から賜ったのです。そしてキリストはその命を人々に分け与えられました。この霊的な命は親から子に、といった生物学的な方法ではなく、信仰の法則によって与られるです。人類の中でただひとり神の祝福を勝ち取ったイエスを主と信じて従う者、彼に属する人々にイエスは復活の命を与えてくださるのです。わたしたちはイエスを信じる信仰によって、その霊的な命を受け継ぐ彼の子孫となることができます(イザヤ 53:10)。

このような働きをわたしのうちに起こしてくださるのは聖霊の働きです。聖霊は神の息吹として万物を創造し、また命を与えるお方だからです。

《これらの骨に向かって、主なる神はこう言われる。見よ、私はお前たちの中に霊を吹き込む。すると、お前たちは生き返る》(エゼキエル 37:5)。

《もし、イエスを死者の中から復活させた方の霊が、あなた方の内に宿っているなら、キリストを死者の中から復活させた方は、あなた方のうちに宿っているその霊によって、あなた方の死ぬはずの体をも、生かしてくださいましょう》(ローマ 8:11)。

この世でのつかの間の安楽を得るために命の源である神から離れて生きる道もあります。

しかし神に祝福された新しい命を目指してあらゆる苦しみに耐え、イエスに従う道もわたしたちの前に開かれているのです。